



TITLE:

和歌山県白浜町番所崎の通称"北浜"  
の高潮線附近に生息する節足動物  
や蜘蛛形類、特にニセハマヒョウ  
タンゴミムダマシ(ゴミムシダマシ  
科)

AUTHOR(S):

久保田, 信; 的場, 績

---

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 和歌山県白浜町番所崎の通称"北浜"の高潮線附近に生息する節足動物  
や蜘蛛形類、特にニセハマヒョウタンゴミムダマシ(ゴミムシダマシ科). くらしお 2003,  
22: 25-26

ISSUE DATE:

2003

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188193>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

# 和歌山県白浜町番所崎の通称“北浜”の高潮線附近に生息する 節足動物や蜘蛛形類、特にニセハマヒョウタンゴミムダマシ (ゴミムシダマシ科)

久保田 信\*・的場 績\*\*

Arthropods and arachnids inhabiting the area around the high tide line of  
“Kitahama” sandy beach at Banshozaki cape, Shirahama, Wakayama, Japan, with  
special reference to the beetle *Idisia vestita* Marseul (Tenebrionidae)

和歌山県白浜町番所崎の砂利混じりの砂浜、通称“北浜”において、久保田は最近の数年間にわたって肉眼で節足動物や蜘蛛形類を観察してきた。これらの動物群の中でよく見かけなのが、節足動物甲殻類のハマトビムシ類で、打ち上げられた海藻や木片などの下に多数の個体が群生している。同じ甲殻類のフナムシは岩場に多く、たとえそこから転石や砂利が砂浜へ帯状に連なっている、その“砂利帯”や砂浜の上をフナムシは這いまわっていることはめったになかった(久保田ほか, 1999)。動物で現存種数が最多の昆虫類では、ハネカクシ類、ゴミムシ類、ハサミムシ類が北浜には見られるものの、澤田(1995)がまとめたような、海浜に生息するハンミョウ類、オサムシ類、コケムシ類、ゾウムシ類、およびシデムシ類を見かけなかった。しかし、北浜に打ち上げられて腐敗中の動物や海藻などにハエ類が群がっていたり、風に飛ばされ落下するなど不慮の事故で出現するゾウムシ類などが見られることがあった。また、セミ類・カメムシ類や蛾・蝶類などの死亡あるいは溺死個体が漂着したこともあった。

蜘蛛形類としては、“砂利帯”に、砂粒の大きさほどの深紅色を呈するイソテングダニが頻繁にはいまわり、小型で体色が黒色のイソハエトリグモがジャンプしているのが見られた。

北浜は概して砂浜であるものの、汀と平行してこの“砂利帯”が形成される時が多々あり、田辺湾を流れる海水の動きの向きと強さによつ

てこの帯の位置や大きさが頻繁に変わる。特に台風や大時化だと、砂浜の地形が急転し、帯の大移動も起こる。一方、潮間帯直下に多数の砂利や貝殻が集積している部分があり、これらは打ち上がった、海中にもどされたりを繰り返して入れ替わりながら帯の形成に関わっている。このように、田辺湾の湾口にある北浜は、波あたりが比較的強く、小石混じりで地形がよく変化するので、生物にとっては住みやすい場所だとはいえない。ただし、人があまり来ないので人為的な影響は少ない。

このような環境から、普段あまり見かけない甲虫を、2000年に初めて1個体、また2003年の4月から5月にかけて6個体、高潮線附近で発見した。この甲虫は、少数個体の発見ではあるものの偶来性ではなく海浜性のものと推察された。高潮線附近には雑多な打ち上げ物が線上にたまっている場所なので、この甲虫はなんらかの打ち上げ物を食べているのであろう。この甲虫に近づくと、砂に潜って逃げるが、その動きはそのあたりに見られるハサミムシ *Anisolabis maritima* Gene (的場同定) のようなすばやさはなく、容易に採取することができた。実験室でも現場の砂を入れた容器内で、ハリなどで刺激すると砂中に潜って隠れる性質が観察された。写真撮影時にもこの潜行する性質がみられた。これら6個体はすべての的場によって、ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ *Idisia vestita* Marseul (ゴミムシダマシ科) と同定された。

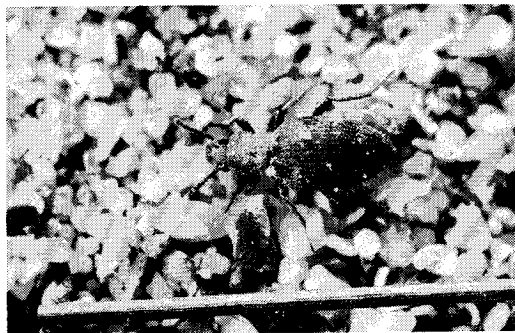


図1 和歌山県白浜町番所崎の“北浜”の高潮線付近で発見されたニセハマヒョウタンゴミムシ。スケールのシャープペンの芯の直径は 0.5 mm

ニセハマヒョウタンゴミムシダマシは普通種とされているものの、「白浜町誌」では触れられてはいなかった(吉田ほか, 1982)。しかし、田辺湾に浮かぶ神島で、的場が1984年6月10日に採集した貴重な記録がある(後藤, 1988)。今後もこの北浜から、後藤(1988)がまとめた「神島の陸上生物」に挙げられているような海浜性の昆虫類のさらなる発見があるだろう。その一例としては、2003年5月6日に、ウミベアカバハネカクシ *Phucobius simulator* Sharp(的場同定)を1個体採集した。この種も海浜性で、後藤(1988)のリスト中に挙げられている。

## 引用文献

- 後藤 伸. 1988 : 神島の昆虫類. *In* 神島の生物. pp. 73 - 79. 和歌山県田辺市教育委員会.
- 久保田 信・田名瀬英朋・布村 昇. 1999 : 瀬戸臨海実験所研究棟内にフナムシ(甲殻類、等脚目)が初めて出現. 南紀生物, 41 (2), 137-139.
- 澤田高平. 1995 : *In* 西村三郎編著, 原色日本海岸動物図鑑Ⅱ. pp. 420 - 478. 保育社, 大阪.
- 吉田元重・後藤 伸・乾風 登・田中昭太郎. 1982 : 4. 昆虫類. 白浜町誌 自然編 白浜の自然, pp. 120 - 131, 白浜町.
- \* 京都大学瀬戸臨海実験所  
(〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 臨海 459)
- \*\* 和歌山県立自然博物館  
(〒 641-0052 和歌山県海南市船尾 370-1)